

奥日光湯元温泉

奥日光湯元温泉は、約 1200 年前、おそらく 788 年に、勝道上人(735–817)によって発見されたと考えられている天然温泉です。勝道上人は、日光の社寺を創始した高僧として知られています。(日本には、)病気を治し、健康を増進させるために長期間温泉を利用する「湯治」という文化があり、奥日光湯元温泉もこのようにして使われてきました。輪王寺に関係し薬師如来を祀る温泉寺、温泉の守り神として勝道上人が創建した温泉神社の両方に訪れることができます。温泉神社で見つかった 1513 年に彫られた青銅製の小さな祠は、この温泉が当時利用されていたことを示唆しています。

明治時代(1868–1912)、多くの温泉施設や旅館がこの地域に建ち並びました。現在の建物の多くは、1928 年の大火災の後で再建されたものです。周囲の山から湧き出る硫黄の温泉は、酸化によって乳白色をしています。源泉の集まる湯ノ平湿原では、地面のいたるところから温泉が湧き出ています。温泉の上には木の小屋が多く建てられ、そこから近くの旅館に温泉水を供給しています。ここを訪れた人々は、これらの温泉を楽しむのがオススメです。温泉は血行改善などの健康的な効能が望めるでしょう。